

「2022 Asia Pacific Science and Technology Conference for Disaster Risk Reduction: Sendai Framework and Science and Technology Aspirations in the Asia Pacific Region」に参加しました (2022/04/07)

テーマ：防災、科学技術、アジア太平洋

会場：フィリピン（ハイブリッド）

URL：<https://resiliencycouncil.ph/event/apstcdrr/>

国連防災機関（UNDRR）、フィリピン政府、アジア太平洋防災科学技術アドバイザリーグループ（APSTAG）が主催する「2022 アジア太平洋科学技術防災会議：仙台防災枠組とアジア太平洋地域の科学技術への期待」が、4月7日にフィリピン（ハイブリッド形式）で開催されました。当研究所の泉貴子准教授（国際防災戦略研究分野）がテクニカルセッション3：Localization, Inclusivity, and Science Perspectives: Focusing on Science Advice and Application at the Local Levelのセッション企画・議長およびパネリストを務めました。泉准教授は国連防災機関より、2015年からAPSTAGメンバーに任命されています。会議には、現地対面で約100名とオンラインで1000人以上が参加しました。

セッション3には「Localization」と「Inclusivity」をテーマに、国際 NGO、政府、アカデミアから6名のパネリストが参加し、科学技術を用いた防災対策をローカルレベルで実施するためには何が必要かを議論しました。また、Indigenous knowledge（先住民族の知識）と科学技術の両立についても活発な意見交換が行われました。アジア太平洋の多くの国々では、防災活動やリスクアセスメントの過程で、コミュニティの参加が限られる、情報が届かないなどの課題が残されています。レジリエンス社会に向けて、コミュニティの意見が防災活動に反映され、科学技術活用が彼らの防災力向上や災害被害の軽減に貢献することを理解してもらうことが重要である、と指摘されました。また、先住民の人たちに科学技術の適応を促すことも課題の一つですが、コミュニケーションの強化や人員育成を通じて可能であり、科学技術と彼らの伝統的な知識や教訓の両方を活用できる対策が必要であることも強調されました。

